

# 止められないシステムに先手の対策を打つ システム稼働リスク可視化ソリューション

すべてのモノがネットワークに接続されるIoT<sup>\*1</sup>時代、より複雑化・高度化する情報システムの安定稼働は、ますます重要な経営課題となっています。日立の「システム稼働リスク可視化ソリューション」は、ネットワークを流れるデータをAI<sup>\*2</sup>で分析することで、システムの不調検知から要因推定・可視化までをトータルに支援。障害の予防保全と迅速な解決で、お客さまのビジネスリスクの最小化に貢献します。

※1 Internet of Things ※2 Artificial Intelligence

## 潜在的な不調を検知し、その要因推定を自動化

ITの高度化とIoT導入の加速などにより、情報システムやデータセンターはさまざまなベンダーの機器が多数接続され、複雑化の一途をたどっています。加えて、未知の脅威の侵入経路も多様化するなか、従来の運用監視の仕組みでは検知できないサイレント障害も多発しており、原因の特定にかかる手間が、システム運用管理者の負担を増大させています。

なかでも、金融機関やeコマース、製造業などのシステムでは、ネットワークや機器トラブル、マルウェア感染などによるシステム停止がビジネス機会の損失となり、クレームや損害賠償請求

なども含め、社会的な信用の失墜につながるケースも少なくありません。

こうしたシステム不調にともなうビジネスリスクの最小化とシステム運用の負荷軽減に向け、日立が提供するのが「システム稼働リスク可視化ソリューション」です(図1)。

日立が開発した本ソリューションをお客さまのネットワーク環境に接続することで、ネットワーク上のトラフィックをリアルタイムに監視しながら、AIで潜在的な不調を検知し、その要因推定を自動的に行います。これによりお客さまは、システム運用管理者の負担を増すことなく、さまざまなリスクの早期把握と、迅速な対処・復旧が可能となり、システムの安定稼働につなげることが可能です。

## ソリューションの主な特長

### ■ 障害発生リスクを早期に検知

システム稼働リスク可視化ソリューションでは、ネットワークを流れる膨大なデータを収集して、トラフィックの通常状態を学習します。そして、AIの機械学習技術や、日立が蓄積したネットワーク障害対応の知見など複数の検知手法を活用してリアルタイムかつ多角的に分析。通常とは異なる傾向の変化(スローダウン、マルウェア拡散活動など)を稼働リスクとして検知します。また、既存のネットワーク構成を変更することなく、本ソリューションを接続するだけで運用できるほか、通常の障害アラームやログでは発見できないサイレント障害も検知することが可能です。

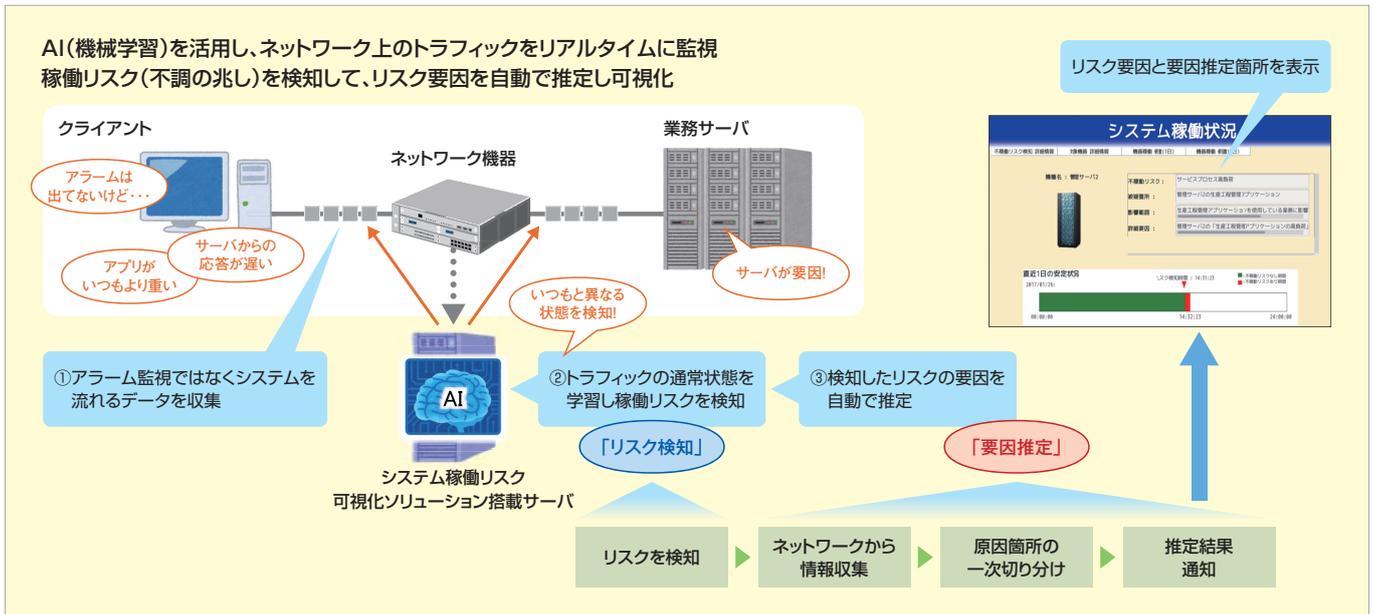


図1 システム稼働リスク可視化ソリューションの概要

### ■豊富な保守ノウハウで リスク要因を自動推定

稼働リスクを検知した場合は、疑わしい機器やサービスの情報を自動的に収集・分析。日立が長年にわたり蓄積してきた豊富な保守ノウハウを活用しながら、原因箇所の一次切り分けを行い、不調の要因を迅速に推定して、システム運用管理者に通知します。機器アラームの監視ではなく、システムを流れるデータを分析するため、サブライチェーンなどの複雑なシステムでも迅速なリスク要因の発見と切り分けが可能です。

### ■グラフィカルな表示で 直感的な把握が可能

検知した不調の箇所を、ネットワーク構成図(トポロジー)に表示。システム全体の一元監視と、異常発生箇所の推定表示により、稼働リスクの直感的な把握を可能にします。通常時も通信エラー傾向、通信量が多い機器などの状態がグラフによって可視化できるため、システムの状態の把握が行え、運用負荷の軽減にも貢献します(図2)。

### ■統合システム運用管理ソフト「JP1」 とも連携可能

システム稼働リスク可視化ソリューションは、日立の統合システム運用管理ソフト「JP1」とも柔軟に連携することが

可能です。使い慣れたJP1の統合監視画面との一元化、メール通知・パトランプ点灯、対処の一元化など、監視から調査・対策までの一連の業務を、お客さまの運用に合わせて、一段と効率化することが可能です。

### さまざまなビジネスシーンに 適用可能

これらの機能の提供により、システム稼働リスク可視化ソリューションは、さまざまな業種・分野において、システム運用管理者の負担を軽減しながら重要システムの安定稼働を支えます。本ソリューションは、すでにクレ

ジット決済ネットワークシステムにおけるサイレント障害の予兆検知、データセンターにおける稼働リスク検知、IoTネットワークにおける外部不正アクセスやランサムウェアなどワーム型マルウェアの拡散活動検出など、幅広い用途で実稼働やPoC(概念実証)が進んでいます。

今後も日立は、システム稼働リスク可視化ソリューションによる分散拠点も含めた統合監視の実現や、クラウド環境でのソリューション提供、自動制御による復旧の迅速化など、継続的なソリューション強化で、お客さまのビジネスを力強くサポートしていきます。

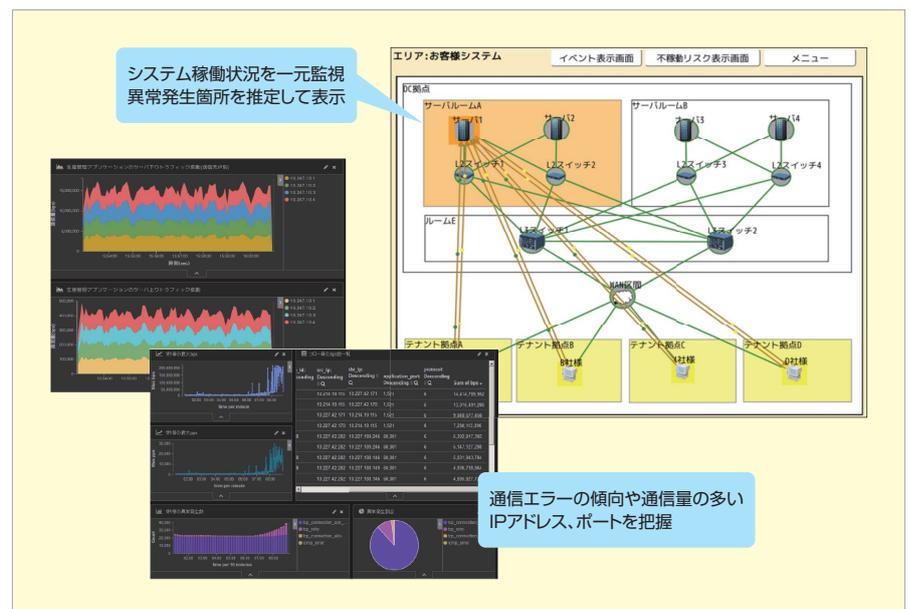


図2 システム稼働リスク可視化ソリューションの画面例

お問い合わせ先・情報提供サイト

(株)日立製作所 IoT・クラウドサービス事業部  
http://www.hitachi.co.jp/rvs/smfvs/